

サザンクロス



vol.11

KINAN HOSPITAL
OFFICIAL INFORMATION PAPER

July 1, 2010

委員会紹介 患者サービス向上委員会

～「病院はサービス業である」の原点に立ち返り、患者様に満足していただけるサービスを提供する～

言葉ではとても簡単に言えますが、多忙な日々の中忘れてしまいがちなことでもあります。私たちの委員会は「患者サービスの向上に関すること」、「接遇に関すること」、「患者満足度調査に関すること」を柱とし、病院に勤務するすべての方に対し、常にこの言葉を意識し行動してもらえるよう活動を行っています。

具体的な活動内容は毎月院内10箇所に設置しているご意見箱への投書内容を委員会で検討し、少しでもサービスの改善につながるものがあれば関係部署と連絡をとりあって改善に努めたり、役所への陳情など然るべき立場の方に善処をお願いしています。返答を求められたものには早急に回答を行っています。また、委員会では3ヶ月毎の重点取り組み目標を掲げ、達成に向けて努力をしようとポスター掲示もしていますが、今ひとつアピール不足を感じています。そこで今年度からは各部署持ちまわりでサービス向上にむけた目標の設定をして頂く事としました。7月からは薬剤部担当です。全職員の眼と心に留まり、自分を振り返ってみるきっかけになって貰えたらというのが委員達の願いです。私達の活動は職員の皆さん方からみれば煙たい風紀委員のように感じられるでしょうが、そこはこの委員会設置方針でもある「病院はサービス業である・・・」を思い返し、患者サービス向上を図るべく活動していきたいと思っています。

最近、接遇面についてはよくご注意やお叱りを受けており、改善も求められています。近々接遇マナーの講習会を予定していますので皆様の積極的な参加をお願い致します。また2月に実施したアンケート調査では待ち時間に対する「不満・やや不満である」が全体の6～8%でした。そこで感覚的な待ち時間対策として外来中待ち廊下にパンフレットケースを設置しました。これにより少しは気持ち的にゆとりを持ってもらえるかと思いますが、職員からの笑顔と声掛けが一番の有効対策だと思いますのでどうぞ宜しくお願いします。尚、サービス向上や改善に役立つような物品等はできるだけ購入を控え、当誌より募集いたしますので心優しい皆様!お譲りください。

今後も委員会の活動にご協力くださいますよう併せてお願い致します。

再び医師不足について

和歌山県の人口は約100万人で高齢率は26%、10年前より人口減少が始まり、昨年は6000人ほど減少している。10年前、年間出生数は約10000人あったが、最近では約7000人である。いよいよ人口減少時代がやってきた。地域の人口が減り続けると患者数が減り病院を支えきれなくなる。これは地域崩壊で医療崩壊とはいわない。地域崩壊を防ぐ良い解決法はないが世界に通用する特徴を持たないと東京に吸収されてしまう。

医師不足で病院の機能を維持できないのが医療崩壊である。産婦人科、小児科、麻酔科の不足が問題になっているが、最近では病院の救急医療や高齢者医療の主力となる内科医の不足も目立っている。医療がニーズに応えられないと住民の不安は大きくなり地域崩壊が進んでしまう。医師不足が大きく問題にされたのは5、6年前からであるが、突然出現したのではなく、それまでも問題はあった。研修医制度は原因でなく、医師の絶対数不足と医療の専門分化が大きな要因である。医療技術、医療機器、薬剤などといった医療環境はこの10年間に大きく変化した。臓器、疾患治療の専門家が専門医とすれば、効率的に専門医の分業体制を維持するには、専門医をコントロールし、患者をトータルに診るジェネラリスト

病院長 山本忠生

が必要である。

しかし病院勤務のジェネラリストは少なく、技術と知識を普及習得するのに精一杯で、心も体も治してほしいという大きなニーズには応えられていない。

あまりに医療が高度になったため中間がいなくなってしまったのだ。医療の専門分化はこれからも進んでいく。マンパワーの充実といっても、数を増やすだけでなく専門医とジェネラリストをバランス良く育てる必要がある。ニーズに応えつつやりたい医療をやるには、地域でどういう医療を、どれくらいの専門医でやるのか考え、育てていく必要がある。そのためには地域医療機関だけでなく医師を育てる大学、病院数をコントロールする行政の支援も必要である。

目先の医師不足や偏在に目を奪われないで、良い臨床医を育てるという長期的な展望と根本的な解決策をはかるのがこれからの仕事である。我々はこれからも地域の中核病院としてバランスのよい発展に努力する。幸いジェネラリストを目指す若者は多いのだから。

Southern Cross
kinan hospital official information paper

医療の現場から

「イボぢ」を切らずに治せるいい話」

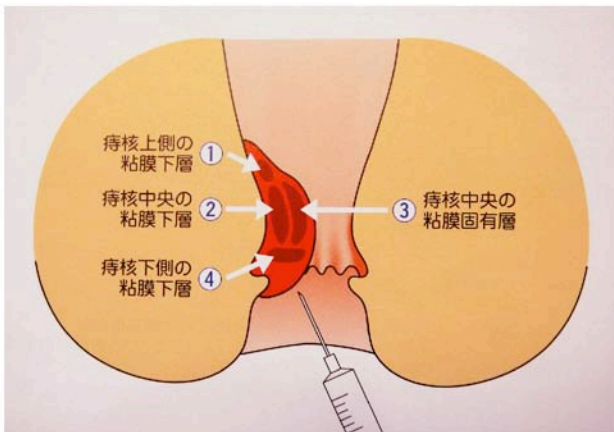
ウンチのあと肛門がブクッと膨れて気持ち悪い、痛くて座れない、便器が血で真っ赤になった…、そんな経験はありませんか？

かの松尾芭蕉は痔の痛みで奥の細道の道中苦しみ続けたそうですし、ナポレオンはワーテルローの戦い直前に痔の痛みに襲われ、そのせいかどうかはわかりませんが、戦いに敗れてしまいました。

“ぢ”—正式には痔核—は、肛門内の粘膜が膨れて大きくなり、排便の時に引きずられて肛門外へ脱出したり、出血したりする病気です。便秘や下痢、排便時のいきみ過ぎなどが原因になります。まずは便通異常や悪しき排便習慣を改善させた上で、炎症をひかせる軟膏を使います。これでダメなら手術を考えますが、これまでは結紮切除法といって切って取る方法が主で、肛門周囲の皮膚も切るので術後の痛みが結構強く、痔核の手術は痛い!と思っている人が多いと思います。今もこの方法はよく行われていますが、最近ではジオンという注射で治す方法があります。痔核の場所や形態によっては適していない場合もありますが、多くの痔核で行うことができます。これまでに10万人以上の患者さんに投与が行われています。



外科 藤田 繁雄



手術は、肛門周囲に局所麻酔をしてから、ジオンを痔核周囲の粘膜下に4カ所注射します。ジオンの注入により速やかに痔核への血流が遮断され、痔核を退縮させるとともに、その後の線維化により痔核の退縮効果を持続させます。手術に要する時間は、麻酔を含めても30分程度で、術後は1時間程度の安静の後、特に制約はなく、翌朝肛門の診察をしてから退院で、1泊入院です。

この方法がいいのは、局所麻酔で行えて食事などの制約はほとんどないことに加え、何より術後の痛みはほとんどないことです。長期成績でも痔核結紮術と遜色のないことがわかっています。

毎朝ウンチをするのが怖くて憂鬱なあなた、外科に御相談ください。“ぢ”が良くなると毎日がバラ色に輝き、明るい表情になれるですよ。

糖尿病療養検討委員会 「私達の試み」

糖尿病療養検討委員会による会議は、医師・看護師・検査技師・栄養士・歯科衛生士が月に1回の割合で、外来・入院の糖尿病患者様の色々な問題を検討しています。当院には様々な患者会がありますが、糖尿病の患者会はありません。何かあればと考え、「患者様とウォーキングをしよう」という提案で、昨年11月に「第1回歩こう会」を、今回「第2回歩こう会」を5月に、患者様・家族10人、スタッフ15人の総勢25人で開催しましたので、その事をご紹介します。

9時30分に新庄公園に集合し、血糖値測定の後準備運動をし、10時より公園の草花を楽しみつつ、お喋りしながら汗をふきふき3.8キロメートルを歩きました。歩いた後の血糖値は皆一律に下がり半分になった方も居られます。ウォーキングは生活の中に必ず取り入れるべしと痛感します。



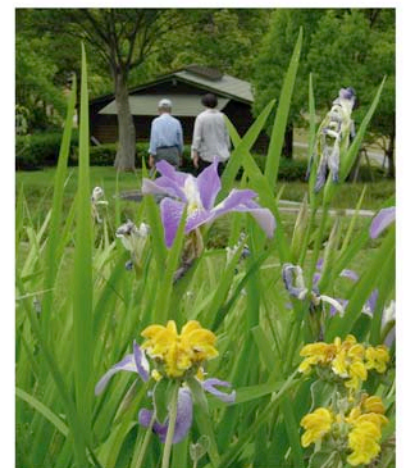
12時より昼食です。栄養士よりカロリーの説明を受けました。写真をご覧ください。これで600キロカロリーです。塩分2グラムで薄味ですが、素材そのものに味がありおいしく頂きました。胃袋にはまだ食べ物が入りそうですが、不思議と満腹感があります。これが腹八分目なのです。いかに日頃から腹一杯にしていたかと反省させられます。

食後はレクレーションです。青空の下、海外の糖尿病教室で人気上昇中のカンパセーションマップを実施しました。こ

れは、糖尿病版双六です。1人が問題を読み、参加者がウソ・ホント方式に答えていきます。正解については、医師やパラメディカルスタッフが解説してくれます。参加者の興味のある問題は、色々な意見が出てとても盛り上がります。

13時、最後に藤本医師より1人1人に血糖値を記入した参加修了書が手渡されて、閉会しました。

今後もこの「歩こう会」は、皆様のご意見を取り入れながら、変化してゆきます。今回参加して頂いた方々が、この患者会の中心になって下さる事を願い、この会が一人歩きできるように私達は応援していきたいと思ひます。



血糖値を測定するスタッフ

地域医療連携だより

紀南病院には、一方ならず、大変お世話になっております。患者様の受け入れ、内科の診療支援など、この場を借りてお礼申し上げます。

田辺市本宮町は、田辺市の東に位置し、国道311を東進し小広峠を越えて、川の流れが逆になる熊野川水系にはいったところ。世界遺産の熊野本宮大社、本宮温泉郷(川湯、湯の峯、渡瀬温泉)がある観光地です。

田辺市本宮さくら診療所は、平成12年に開院した本宮町医療保健福祉総合センター(うらら館)内にあります。現在は、社会福祉協議会、高齢者支援ハウス、公衆温泉(蘇生の湯)と診療所の複合施設です。

さくら診療所は、夜間救急に対応しようと医師2名体制で、診療所としては充実した医療設備(CT・緊急血液検査機器など)も備えて開院しました。



本宮さくら診療所
山下 成人



私は、平成17年11月からさくら診療所に赴任しました。平成元年卒業後、産婦人科、大学での予防医学の研究、行政(保健所)を経て、総合診療(地域医療)の道に入りました。入るきっかけは、私が行政で担当地域の医療崩壊に直面し、医師確保に奔走していて、「ミイラ取りがミイラになった」と言いますか、私自身が地域の医師として働くことになりました。

さくら診療所に来て、医師の確保が難しく、私が赴任して5年になりますが、医師1名での体制が3年目になり、2人目の医師確保に苦労しています。

そのたびに、紀南病院内科の先生方をはじめ、診療のご支援を頂き、何とか診療を維持しております。また、医師1名のため夜間救急は平日午後8時までになっています。

本宮は山間へき地のため、受診者は後期高齢者が多く、病院までの利便性が悪い(紀南病院まで車で約70分)ため、当

院での対応を希望される患者様が多いため、CT、エコー、内視鏡など充実した医療設備を駆使し、地元で適切な医療を提供できるように日々努めております。また、高齢によるADL低下や山間の住宅事情(玄関から車まで石の階段が何十段など)から往診のニーズもかなりありますが、医師1名のため十分な対応ができない現状です。

最後に、本宮町民待望の整形外科診療が、平成18年4月から紀南病院整形外科のご支援により開始しました。現在は、地元出身の徳田医師が担当しています(診療日は金、土)。

看護学校だより



看護の日

5月7日(金)、(5月はナイチンゲールの誕生日)「人の琴線に触れる言葉の大切さ～やさしさに包まれて育つ心～」をテーマに森岡花華氏(保育士)による講演を聞きました。

いのちの大切さにまつわる話で、学生達は真剣に聞き入っていました。



校内バレーボール大会

5月8日(土)、校内バレーボール大会が開催されました。各学年でチームを作り、親睦を深める機会になりました。優勝したのは、1年生でした。

お知らせ

8月10日(火)、学校説明会を当校で行います。(9時30分から受付、10時から)当校のカリキュラムや学校生活について、施設内の案内をします。申し込みは不要です。当日、来校して下さい。



病院のまど

第25回市民健康講座について

脂質異常症は、以前は高脂血症と呼ばれていたもので、潜在患者を含めると3,200万人もいると言われていています。この脂質異常症は、自覚症状がないため健康診断等で異常を指摘されても、放置してしまいがちになってしまいます。しかし、放っておくと動脈硬化を進行させ、心筋梗塞、脳卒中の危険が高まります。

日 時 平成22年7月25日(日)
時 間 午後2:00~3:00
会 場 紀南病院 3階講堂
演 題 脂質異常症(高脂血症)
・ ・ ・ ・ ・
演 者 赤木 秀治 (副院長兼循環器科部長)

紀南幼稚園の園児からの花束贈呈

毎年6月2日曜日に、紀南幼稚園の園児達が日頃の感謝をこめて病院を訪問しています。当院にも毎年訪問してもらっており、いつも楽しみにしています。



今年も園児達が来てくれました。医師や看護師に、小さな体をいっぱい使って感謝の言葉と一緒に花束を手渡してくれる児童の姿はとても可愛らしかったです。

雨にも負けない元気な姿に、我々も元気をもらいました。

第24回市民健康講座について

平成22年5月23日(日)に、市民健康講座を開催しました。今回は、「胃がんについて」と題しまして、当院消化器科部長、木村りつ子が講演しました。

かつては胃がんといえば開腹手術、というイメージがありました。しかし、現在は早期であれば内視鏡でも治療が出来るようになりました。胃がんの治療法の進歩に、お越し頂いた皆さまは、目を見張って聴講されていました。

第2回院内METトレーニングコース開催予定

院内の医師及び看護師を対象に、現在欧米で導入が進んでいる新しい院内急変時対応システムのMETについての研修を、来る平成22年7月4日(日)午前9時より開催します。参加人数は10名程度を予定しています。興味のある方は、麻酔科中川医師までご連絡下さい。

第6回紀南地区がん診療研修会について

社会保険紀南病院は、地域がん診療連携拠点病院として紀南地域に質の高いがん医療を提供できるよう取り組んでいるところです。その取り組みの一環として、地域の先生方及び医療従事者の皆様を対象に、第6回紀南地区がん診療研修会を開催しました。



今回は「前立腺がん」をテーマに、当院泌尿器科部長、山際健司が「前立腺全摘術について」、当院泌尿器科医長、線崎博哉が「前立腺癌の診断と治療」についてそれぞれ講演を行いました。



編集後記

日進月歩と言えば、デジタル家電!!いわゆるデジモノの進化を追いかけると夢が広がります。空想に浸る私は、日常から逃避することもできます(笑)。今、話題のiPadがこの5月末に発売されました。iPadの出現により新聞や雑誌業界は大きく変化すると予想されています。近い将来、iPadのような電子端末が普及すれば、このサザンクロスも紙面では見れなくなるのでしょうか?

書きながら、今もまた空想に浸ってしまいます。近い将来、臭いもするテレビが開発されたらなあと思ってしまう私でした。デジモノ万歳!!(K.W)

基本理念

社会保険紀南病院

私たちは、患者さまに優しさをもって接し、皆様から信頼される医療を目指します。

紀南こころの医療センター

やさしさをもって、信頼と満足の得られる医療を行います。

社会保険紀南病院

〒646-8588 和歌山県田辺市新庄町 46-70

Tel 0739-22-5000 Fax 0739-26-0925

<http://www.kinan-hp.or.jp>

Southern Cross
kinan hospital official information paper